

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の 1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

世帯と人口

(9月1日現在)

世帯	43,450	(+ 16)
人口	117,807人	(+ 17)
男	60,390人	(+ 2)
女	57,417人	(+ 15)

広報えびな

電車の「健康診断」を行う検車区の作業風景



21世紀へ前進する海老名②1

安全支える電車基地

7つの鉄道駅を持つ海老名では、電車は私たちにとって身近な存在です。電車の長所は、一度に大勢の人たちを安全に目的地へ運べる点。14日に鉄道記念日を迎える今回は、海老名から都心に向かう路線を持つ鉄道の電車基地で行われている保主作業を紹介しましょう。

6日に1度は車両検査

敷地面積5万6413平方メートル、保有する通勤電車の約45%にあたる482両(89編成)が所属するこの電車基地の中には、約70人の職員が勤務する検車区という部署があります。

検車区は、電車が安全に走るため、定期的に車両の「健康診断」を行う所。主要機器を点検する列車検査(6日に1度)と、1日かかりで電車全体を点検する月検査(3カ月に1度)などを受け持っています。

電車は走るよりも確実に止まれることが重要。通勤電車は停止回数が多いので、車輪を押さえるブレーキ板は約3カ月から半年で交換します。また、今は半導体で速度を制御する電車がでてくるので、電子部品が熱を持ったり変色していないかなども点検するそうです。

「電車の車輪は内側が一段高く、外側に向かって低くなっています。この形が崩れると、電車が脱線する可能性も出てくるので、検査場所入口の線路に、車輪自動測定装置を平成11年度に導入しました。これは、電車が装置を通過する時に、車輪の形に異常がないかをレーザー光線で探査するものです」と係員。「仕事上の苦労は？」の質問には「本当は、手間のかかる電車の方がかわいいと感じてしまうんですよ」と、答えてくれました。

深夜に線路の補修作業

基地内には検車区のほか、約50人が勤務する機械保線区という部署があります。

線路は、碎石を敷いた道床とレール・枕木などでできていますが、道床が電車の頻繁な通過で緩んだり、レールの表面に小さな傷がつくと、放っておけば事故につながる可能性もあります。

機械保線区は、特殊な機械や車両を使って、道床のつき固めや交換をしたり、レールの削正(表面を削り形を整えること)など、線路の保守業務を行っています。作業時間は最終電車通過後の深夜。「午前1時すぎから電車が走り出す4時半ごろまで、約3時間半程度しか作業できません」という、過酷なスケジュールです。

ときには沿線住民が、作業音を聞きつけて見に来ることもありますが、事情を説明すると「頑張ってください」と励まされることもあるそうです。「作業後に交通ニュースで『平常どおり運行中』と聞くことが、次の仕事の活力源になります」。

9月には新型のレール削正車が導入されました。「約200メートルのレール表面を、数往復して10分の2まで削ります。海老名周辺から都心寄りには電車の本数や乗客も多く、レールの損耗度が高いようです」。

こうした最新の機材や技術でも、探知できない異常箇所があります。それを補うのが現場で長年培った経験。「電車の走行音や点検用のハンマーで叩いた音で、線路の異常が分かるようになるものです」と担当者。最新の技術と、安全に携わる人々の経験。この2本のレールの上を電車は安全を乗せて未来に向かって走り続けています。